

横浜都市発展記念館及び  
横浜ユーラシア文化館指定管理者選定委員会

横浜ユーラシア文化館

議事要旨

## ◆第1回選定委員会

議題	1. 委員長の選任 2. 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の検討 3. 選定スケジュール、評価手順の確認
日時	平成17年7月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山 和雄（國學院大学教授） 川口 徳治朗（神奈川県立歴史博物館学芸部長） 齊藤 毅憲（横浜市立大学教授） 末崎 真澄（(財)馬事文化財団馬の博物館学芸部長） 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会会長） 水嶋 英治（常盤大学大学院教授） 室谷 参（横浜市立小学校長会 並木第四小学校長）

## 審議内容：○ 委員会運営決定事項

- ・上山 和雄を委員長に決定
- ・今後の委員会の公開非公開の決定

## ○ 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準、公募要項の検討

## ＜業務基準について＞

- ・市としての文化財等施策の「基本方針」、施設の「業務基準」について
- ・専門性の担保について

## ＜公募要項について＞

- ・一次、二次の二段階方式、手順、スケジュールについて
- ・一次、二次の審査の方法、採点の分離、最低ライン設定について
- ・評価の点数化の方法について
- ・評価結果の応募者への伝達のあり方、審査報告書のあり方について
- ・具体的な評価ポイントの事前公表について
- ・透明性の確保について

## ＜提案課題について＞

- ・課題の内容について
- ・応募者の創意工夫を受け留める自由提案について

## ＜評価基準について＞

- ・評価の判断基準の共有化について
- ・経費削減、収支予算の評価について
- ・提案書類と実態能力の乖離を小さくする方法について
- ・ヒアリングのあり方について

## ○ 決定事項

- ・公募スケジュールの決定
- ・業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の決定

## ◆第2回選定委員会

議題	1. 一次審査 2. 一次審査通過団体の決定
日時	平成17年8月24日（水）午前11時15分から午前12時
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山委員長、川口委員、齊藤委員、末崎委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○経過の確認

- ・公募告知、要項等配布の状況
- ・公募説明会の参加状況、現場見学会の状況
- ・質疑応答の状況

○応募団体確認

- ・1団体の提案の確認
- ・欠格条項非該当の確認

○一次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○1団体からの一次提案書の審査

<ユーラシアの考え方の普及について>

- ・子供たちやなじみのない人にユーラシアという体系的な考え方を広めていくような宣伝、知名度アップの取組みを図ってもらいたいという要望が強くだされた。

<知名度のアップについて>

- ・提案内容も一定の水準をもっており、信頼感ももてるが、もっとPRや変革の取組みなどを強調して主張されること、市民に噛み砕いて伝えることが期待されるといった指摘がなされた。

<横浜との関わりについて>

- ・横浜との関わりについては難しいが、専門性が高い施設であるので、とりあえずある程度知識のある人を対象にして専門性を高めていくことが必要といった指摘がなされた。

<他の施設とは異なるアプローチの必要性>

- ・広く一般の市民を対称とすることは難しく、関心のある人を対称に、専門的な研究会や勉強会、資料解説などに取組むことも必要であるといった指摘もなされた。市民展示といった市民研究員のような提案はこころしい提案といった評価がなされた。

<提案実現への具体的方法について>

- ・開館時間や開館日などを見直すと掲げられているが、具体的な実現する方法や見直し内容は不明確であるといった指摘がなされた。

<組織面の不安について>

- ・限られた人員で、壮大なテーマと提案内容を実施していくには厳しいのではないかという指摘がなされた。

<全体として>

- ・難しいテーマの施設に対して水準の高い提案がなされており、市民との関係づくりなども工夫された提案がなされている。一次通過には十分であるが、知名度アップに対する期待が強く指摘された。

○ 一次通過者の決定

- ・最終採点の結果、3以上評価の獲得率も100%、評価得点は1650点中1418点と高い評価点を獲得したことから、一次審査通過と全員一致で決定された。

■一次審査結果： 一次審査通過団体

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

## ◆第3回選定委員会

議題	1. ヒアリング 2. 二次審査 3. 最優秀提案者の決定
日時	平成17年10月9日（日）午後14時から午後15時
開催場所	横浜開港資料館 講堂
出席者	上山委員長、川口委員、齊藤委員、末崎委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○ 経過の確認

- ・ 二次現場説明会の状況
- ・ 二次質疑応答の状況

○ 二次提案書提出応募団体確認

- ・ 1団体提案の確認

○ 二次仮評価の検討

- ・ 評価得点の確認
- ・ 通過最低ラインの確認

○ 一次通過1団体からの二次提案書に対するヒアリング

<江上コレクションの位置づけについて>

- ・ 江上コレクションが重要な核になっているが、コレクションをどのように扱っていくのかという質問に対して、収集資料の9割を占める状態であり、これまでは特に江上コレクションを前面に強く打ち出さなかったが、今後むしろ打ち出していく取組みもしたいという回答があった。

<データベース化について>

- ・ データベース化、インターネットでの公開について質問があり、文献資料は完璧に整理できていなくても、積極的にホームページに公開していること、実物資料も写真などを取り終えたものから逐次見られるようにしていくことなどが示された。

<パブリシティについて>

- ・ 魅力資源を活用するとともに、広報により積極的になって欲しい、お金をかけないメディアの活用、マスコミが関心を持つタイミングをつかむなどに心がけて欲しいという要望が示され、努力していくとの表明があった。

<市民参画について>

- ・ 市民参画を具体的に進める方法について質問があり、開館から3年たってようやく核となる顔の見える市民の方々が生まれてきた、その方を核にしていきたいこと、また、専門的な興味を示される方もいるので、提案した市民研究

員といった仕組みを具体化していきたいという回答があった。

<市民や学校との関係について>

- ・市民との広い関わり、学校との関係は大切であるが、この施設の性格からすると、広く一般よりもむしろ対象を関心の高い層を中心に絞り込んで、専門性の発揮に重点を置くべきではないかといった意見が示された。子供も無理に理念的に掲げるよりも、実態から少し軽く考えてもよいのではないかと、他の施設とは異なるという意見も出された。

<ユーラシアネットワークについて>

- ・ユーラシアネットワークとは具体的にどのようなものかという質問があり、国内では古代オリエント博物館、岡山市立オリエント美術館、国外では、大英博物館、メトロポリタン美術館、クリーブランド美術館などであり、様々なレベルの連携、交流を始めていると回答があった。

<アジアの訪日者への取組みについて>

- ・韓国、中国、台湾からの観光客などに対してPRするなどを旅行代理店などを使ってやるのがよいのではないかと意見があった。

<ヘッドクォーター機能の重要性について>

- ・財団が一体的に運営するとなると、やはり財団本部で統括して、全体を一つの方針で見えていくということ重要な要素となるという指摘がなされた。

## ○ 二次審査

<ユニークな取組みが必要>

- ・ユーラシア文化館は他館とは異なり、その専門性や特性に応じた特化した取組みがあってよいのではないかと、むしろその方が個性がでるという指摘がなされた。

<世界を視野に発展の可能性がある施設>

- ・テーマ自体が世界でも少ないものであり、世界史的視点に立ってやりがいのある施設であろうし、発展の可能性がある。大いに期待する施設であるとの指摘があった。

<楽しみな提案書>

- ・非常に興味を高める工夫、発想が豊かな計画書であり、実行可能性、着実な方向性も示され、期待できる提案であるとの指摘がなされた。

## ○ 最優秀提案者の決定

- ・最終採点の結果、3以上獲得割合7割という最低基準ラインに対して100%、評価得点2590点中2000点と高い評価を獲得し、最優秀提案者として決定することに全員が一致した。

## ■二次審査結果： 最優秀提案者

財団法人横浜市ふるさと歴史財団